

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第299回

星野富弘

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和4年3月21日

編集委員：入試広報室 鈴木

## 今回の言葉

『辛い』という字がある。もう少しで、  
『幸せ』になれそうな字である。

星野 富弘は、日本の詩人、画家。国内外で「花の詩画展」が開かれている。



## Column

詩人であり画家である星野さんならではの表現のセンスに溢れるメッセージだと感じました。『いつになったら終わるんだろう…』と先が見えない不安に押しつぶされそうになることや、『もう頑張れない。解放してほしい…』と何もかも投げ出したくなる時もあると思います。そんな時に、今回の言葉をかけられて素直に受け入れられますかと問われたら…。私は即答で『YES!』と答えられる自信は正直なところありません。しかし、この言葉を覚えておくことで『あともう少し!』と自分を奮立たせるきっかけは作ることができるのではないかと感じています。

辛い時の表現として様々な言葉があります。長いトンネル、迷路、暗闇、壁などの表現をよく耳にします。希望に溢れている時は、気持ちが明るくなることで目に見えるものも普段より明るく見える気がしませんか？光が射しているというよりも自ら光を放っているかのようなポジティブな力に溢れています。辛い気持ちの時は光を感じられない、光が見つからない不安から、光を遮るものを使って表現するのでしょうか。トンネルのおかげで近道になり、早く楽しい目的地に到着できます。迷路はファンが多く、本も出ていたり、最近は見かけませんが以前は巨大迷路が流行したほど人を楽しませるものです。真っ暗のほうが深く眠れると聞きますし、壁があるおかげでプライバシーが守られます。“少なからず恩恵を受けているものをネガティブな表現に使うのはちょっと…”と思う部分もありますが、人の気持ちによって全ての“感じ方”は大きく変わるのだということを改めて思い知らされました。

人の立ち振舞いに対して同じことが言えると思います。ニコニコしていても、実は大きな悩みや辛さを感じながら我慢している人もいます。そういう意味では、大人になればなるほど“本音”が言えなくなっていくのかもしれない。多くの経験を重ねていく中でクリアする方法を身につけると同時に、クリアなのか逃げなのか単なるわがままなのかかわからなくなり、ミスを恐れて表に出せなくなっているのかもしれない。ヘルプを出すタイミングを見計らっているうちに時間切れになってしまう。そんな経験はありませんか？あとになって気づいた経験はありませんか？そんな仲間を見たことはありませんか？そんな仲間のヘルプを受け止められなかった経験はありませんか？『自分のことに気づけないんだから人のことはもっと気づけないよ…』と思うかもしれませんが、それはお互い様です。手前の段階でお互いの変化にすぐ気づけるようもう少しコミュニケーションを取っておくことが重要ではないでしょうか。誰かのもう少しの努力が誰かを幸せにする連鎖が生まれ、世界中が幸せで溢れてほしいものですね。